

第7回 武蔵村山市長期総合計画後期基本計画市民懇談会

次 第

日時：平成26年10月28日（火）

午後7時

場所：301会議室

開 会

1 報告

第6回長期総合計画後期基本計画市民懇談会の会議要旨について

2 議題

- (1) 武蔵村山市第四次長期総合計画後期基本計画市民懇談会提言書（案）について
- (2) その他

閉 会

配布資料

「各委員からの御意見について」

各委員からの御意見について

○ 原田（妙）委員

「個別検討テーマでの意見」の「(5) 福祉（高齢・障害等）について」において、「軽度な知的障害者に対しては、就労支援や外出しやすい環境づくりが重要である。」とする意見が掲載されているが、発言の趣旨は、障害者手帳を持たない「発達障害の人に対しては、就労支援等の環境づくりが大事である。」ということである。

⇒ 趣旨に誤りがあったため、記載内容を「発達障害の人に対しては、就労支援や外出しやすい環境づくりが重要である。」に改めます。

○ 原野委員

1 国際人を目指した英語教育の基礎を

国連職員の応募条件の一つに英語ともう一つの外国語の会話能力が必要とされている。外国に行くにも、また外国人を受け入れるのにも英語力が必要だ。

⇒ 英語教育に関する意見については、個別検討テーマでの意見「(9) 学校教育に望むこと」において同様の意見が掲載されておりますので、提言書には加筆しないものとして考えております。

2 行政も市民も変わらないといけない

まちづくりに市民参加が得られていない。これが一番の問題だと思う。民主主義の根幹が選挙であるにも関わらず前回の市議選は無投票であった。行政も市民も変わらないといけない。男女共同参画も男性や企業（事業者）の意識は遅々としてなかなか進まない。男性も企業も変わらないといけない。提案として、市議会の構成を30%は女性議員としたらどうだろう。

⇒ 新たな御意見として、個別検討テーマでの意見「(2) まちづくりにおける市民参加」に、「まちづくりに市民参加が得られていないことは問題である。行政も市民も変わらないといけない。」とする内容を追加させていただきます。

また、現在の市議会の構成は、20名中女性議員は4名で、20%を占めております。提言書には、男女共同参画に関する項目はありませんが、個別検討テーマでの意見「(6) 子育てしやすいまちづくり」に、「男女共同参画の意識を広く浸透させるため、女性市議の割合が増えることが望ましい。」とする内容を追加させていただきます。

3 想定外に思う

想定外は何も自然災害といったハードだけのものではない。財政状況が厳しい中で近隣自治体との合併も視野に入れておく必要がある。市役所が何のためにあるのか。何が一番市民の幸せにつながるのか今一度考えてみよう。

⇒ 新たな御意見として、個別検討テーマでの意見「(14) 限られた財政状況下での市政の考え方」に、「財政状況が厳しい中で近隣自治体との合併も視野に入れておく必要がある。」とする内容を追加させていただきます。

○ 細井委員

1 駅のない武蔵村山の特性に合わせて、公共交通の改善を追求する

モノレール開通には時間がかかる。住みよいまちづくりには、公共交通の更なる改善が期待されている。イオンのバスターミナルを利用して、西武線・JR線へのシャトルバスを通勤時間帯に走らせると、勤労者に便利になるのではないか？

⇒ 提言書(案)の主要な項目について、「6 公共交通を充実し、地域の活性化を図る」を追加し、市内循環バスの効果的な活用を模索することについて加筆しております。

また、市内循環バスについては、「武蔵砂川ルート」として、通勤時間帯に「春名塚～イオンモール～武蔵砂川駅」を結ぶルートが設定されておりますが、「玉川上水ルート」は、通勤時間帯にイオンモールを経由しないことから、個別検討テーマでの意見「(9) 公共交通の充実と地域活性化」に、「通勤時間帯にイオンのバスターミナルと玉川上水駅の間をコミュニティバスが走るようになれば、通勤者の利便性が向上するのではないか。」とする内容を追加させていただきます。

2 高齢化の激しい武蔵村山に合わせて、高齢者の健康維持に着目した政策の追及に力点を置く

健康で長生きしなければ意味がない。体力維持を目指して「二次予防事業」の充実化や老人性低栄養化を防ぐために自炊能力の普及、そして何より生き甲斐のある生活の追及を支援する。

⇒ 提言書(案)の主要な項目については、市民懇談会において検討した内容のうち、特に重視してほしい横断的な視点を整理したものとなります。このため、高齢者の健康維持に着目した視点については、「1 武蔵村山の良好な自然環境を教育や健康づくりに生かす」の中には加筆せず、個別検

討テーマでの意見「(5) 福祉(高齢・障害等)について」に、「高齢者の低栄養を防ぐため、自炊能力の向上を普及してはどうか。」とする内容を追加させていただきます。

3 緑の町武蔵村山に合わせて、農業を中心にした地場産業の発展を策定する

武蔵村山市の畑で収穫した物を、市民が購入しやすいように、高齢者の力を借りて流通システムを改善し、生産者と消費者の双方の利益が得られるように工夫する。特産の農作物を開発する。(例；市内の全ての空き地や休耕地にヒマワリを植え、ミツバチを飼って蜜を採集し、種から食用油を作り、葉や茎は肥料化する等循環型営農を検討する)

⇒ 「個別検討テーマでの意見」のうち、「(13) 地域の産業に対する考え方」において、「農業振興策として、生産した農作物をどのように流通させるかが大きな課題である」とのことが述べられておりますので、流通システムの改善については、同趣旨の意見として考えることができます。

特産の農作物の開発については、個別検討テーマでの意見「(13) 地域の産業に対する考え方」に、「休耕地を活用して、ひまわりの種から食用油をつくり、茎や葉は肥料化するなど資源循環型地域営農を検討してはどうか。」とする内容を追加させていただきます。

4 武蔵村山らしいまちづくりを目指して、歩道の整備を追求する

何よりも歩道が狭く自転車が走りにくい。歩道の中に立つ電柱は危険である。出来るところから拡幅すると共に、車道と歩道に段差があるのは不便なので、段差を無くし、視覚障害者向きに点字タイトルの白線を敷く。

高齢者の力を借りて、自転車遊歩道の桜並木の若返り対策を講じると共に、さくらのないところに植樹し、国立駅前に負けない桜の名所とする。

⇒ 第4回市民懇談会では、「公共交通の充実と地域の活性化」を議題に討論してまいりましたが、歩道の整備については議論を深めることができませんでしたので、個別検討テーマでの意見「(9) 公共交通の充実と地域活性化」に、「歩道に立つ電柱は危険であるため、歩道を拡幅するとともに、車道との段差を解消し、点字タイトルの白線を敷くなど視覚障害者に配慮した整備をする必要があるのではないか。」とする内容を追加させていただきます。

5 武蔵村山らしい自然環境に合わせて、自然に親しむ教育を展開する

武蔵村山の子供は樹木の識別が出来る、虫や花の名に詳しい、川の生き物に精通している、などの教育成果が普及するような楽しい自然教育を通じて、郷土愛を育てる。

⇒ 提言書（案）の主要な項目「1 武蔵村山の良好な自然環境を教育や健康づくりに生かす」と同視することができると思います。また、「自然を教材とした村山ならではの教育」として、個別検討テーマでの意見としても掲載しております。